

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

憲法週間記念のつどい

小室等・こむろゆい さん

～いま生きているということ～ トーク&コンサート



憲法週間を記念して5月12日、サーティホールで818人のお客さんを迎えて、第一部に笑福亭鶴笑さんのパペット落語を、第二部に戦後団塊の世代には「六文銭」と聞けば懐かしい小室等さんと、こむろゆいさんのユニットコンサートを開きました。主催は市と市教育委員会、人権啓発ネットワーク大東。



オープニングを飾った笑福亭鶴笑さんのパペット落語は、おかしくて、面白くて、孫悟空が赤鬼を退治するくだりには、後ろの席の親子連れは泣きながら笑っているなど、会場が笑いで渦巻いていました。笑福亭鶴笑さんは、「国境なき芸能団」の代表として、世界の戦地難民キャンプなどを回って励ましの笑顔を送っているといえます。

第二部は小室さん親子のコンサート。小室等さんは「出発(たびだち)の歌」や「雨が空から降れば」などよく知られるフォークシンガー。コンサートの合間を縫って、阪神・淡路大震災の5か月後に発足したNPO法人「ゆめ風基金」の呼びかけ人代表として、日本ばかりでなく、世界各地の被災地で壊れた障がい者施設の修復等の費用支援と、その費用の募金活動を続けています。

こむろゆいさんは、NHK「みんなのうた」とアニメソングで子ども達によく知られた歌手。8年前から父・等さんと親子で新ユニット「Lagniappe(ラニヤップ)」を結成し、戦争のない平和な社会と、障がい者への支援などを訴えて、公演活動を続けておられます。

(次ページへつづく)

コンサートは、お二人のギターとウクレレだけで1時間、10数曲を歌い続けられました。曲目は、僕ら団塊の世代がその昔平和を求めて歌った懐かしいフォークソングや、木枯し紋次郎のテーマ曲、そして、「ゆめ風基金」の被災地訪問の活動で生まれた詩と曲など、憲法の原点である平和や、人と人とのつながりなどゆっくりと諭すように話し、歌い、訴えられました。

心配された雨もなく、楽しく豊かな憲法週間記念のつどいになりました。

(レポーター 松ちゃん)



第34回人権パネル展

あなたがあなたらしく わたしはわたしらしく

～ L G B T っ て な あ に ～

今年度も野崎まいるの5月1日から4日間、野崎観音会館をお借りして人権パネル展を開催し、1,353人ものご来場をいただきました。今回のテーマは「LGBT」。これは、L（レズビアン）、G（ゲイ）、B（バイセクシュアル）、T（トランスジェンダー）の性的少数者を表す言葉です。



当事者の中には、周りとは違う自分に違和感を持ちながらも、不安を誰にも相談できず、ひとり悩み、日常の様々なところで、生きづらさを感じている方もいます。また

「からかい」や「差別的な言葉の暴力」により、自尊感情を傷つけられ、最悪の場合、自死に至ることもあります。

筆者自身、友人から「自分はゲイだ」と告白されたことがありました。その時は戸惑い、よく理解できないままに「せっかく男前やのに」「一回女性と付き合ってみたら『治る』んじゃない？」と、間違っ、非常に傷つける言葉を投げつけてしまいました。彼と何度も話をし、それが彼のありのままの姿であると理解するまでには長い時間がかかりました。今でも彼は、信頼できる人にしか打ち明けられず、私も周囲に漏らさないようにしています。

現在、日本では13人に1人がLGBT当事者と言われています。もはや他人事ではありません。「自分は関係ない」と思っている人であっても、家族や友人、身近な人の中に、誰にも相談できず悩んでいる方がいるかも知れません。

違いを認め合い、多様な生き方が尊重される社会は、きっと全ての人にとって生きやすい社会であると思います。「自分らしさ」「その人らしさ」を取り戻すために、皆さんもこの機会にLGBTを理解し、自分のこととして考えてみませんか。

(レポーター あき)

ご来場者の感想から

- よくわかる内容でみんなそれぞれ考えておられました。とても有意義だと思えます。
- 性的マイノリティ、LGBTの理解、支援が広がることを願っています。
- 多様な性について考えさせられました。
- パネル展だけでなく当事者の生の声をききたい。

い い とないの活き生きサン

ここでは、大東市の人権推進につながる
取り組みを行っておられる方々や団体の紹介をさせていただきます。

子どもの居場所 「わいわいわがや」

「今日の料理、まずそっ！」そんな一言目のごあいさつ。そう言いながら、おしゃべりしながらパクパクと夕食を食べる。もはや「おいしそう」と言われているようにさえ感じるほどもう当たり前の光景。

私たち‘わいわいわがや’（任意団体）は、大東市の四条小地区にて月に一回、夕方以降の子どもの居場所作りと夕食提供を行っています。地域の方々や民間団体、学校等とともに検討を重ねながら、昨年8月にオープンしました。

登録制での開所をしているため、こども食堂というカテゴリに入るかはわかりませんが、子どもたちや保護者にとって安心できる「夕刻を支える場※」となることを目指しています。

子どもの貧困対策として注目を浴び、全国に広まったこのような活動ではありますが、決して子どもが抱えている問題は経済的貧困だけに集約されるものではありません。学校に行けない子、友人とうまくいかない子、家庭にしんどさを抱えている子、障がいを持っている子、非行に走ってしまう子。そんな子どもたちが抱えているのは、むしろ「(人との) 繋がりの貧困」だと私は思います。経済的な貧困対策だけでなく、ただの夕食提供でもなく、表面上の行動や言葉で左右されない「心で繋がれる大人との出会い」の演出。それこそがこの、‘わいわいわがや’の活動の醍醐味だと思っています。

今「わいわい」集ってくれている子どもたちが、いつか心から『ただいま』と言って支援者として帰ってきてくれる、そんな「我が家」のような夕刻を支える場を、今後も目指していきたいと思っています。

わいわいわがや

代表：菅野 幸里（ヒューマンライター）

連絡先：yuky0917@yahoo.co.jp

※夕刻を支える場：学校や放課後児童クラブが終わってから夜にかけての時間や学校休みの期間に、子どもたちが安心・安全に過ごせるような取り組みを行っている場の総称。子どもがそこに通うことで、保護者の夕刻も安心できる時間になればという思いが込められている。

夕刻を支える場テーマソング

▼「夕刻」作詞：金澤ますみ 作曲：菅野幸里



「ただいま」作詞・作曲：金澤ますみ ▲

2017ヒューマンコンサート

安土 明中子(あづち みなこ)トーク&コンサート

いのち ～命の種は未来の花～

2月24日にサーティホール多目的小ホールで開かれた今年のヒューマンコンサートは、190名もの方々がご参加くださり、とてもパワフルな時間でした。

安土さんがお母さまの介護を通じて見たこと、感じたことなどのお話や、再生不良性貧血（骨髄の病気）のサバイバーでもあり、骨髄バンクに関する活動もされている親子とのセッションなど盛りだくさんで、その場にいるだけでたくさんのエネルギーをもらえるような内容でした。「花は咲く」や「水のころ」の合唱のときは、会場全体から歌声が響くような盛り上がりを見せるなど、涙ぐむ方もいらっしゃるほどでした。



また、当日参加者のみなさまと作成したペーパーフラワーもたくさんの花を咲かせ、とてもきれいな作品になっていました。

とても濃い内容であったという間の2時間でした。安土さん、共演されたみなさま、本当にありがとうございました。

とても濃い内容であったという間の2時間でした。安土さん、共演されたみなさま、本当にありがとうございました。

(レポーター 卓ちゃん)

★ 会員募集

— 活動内容 —

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。
人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。
会費等はありません。



★ ヒューマンライター

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の取材をしていただける方（ヒューマンライター）を募集します。

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 お名前 電話番号を記載の上 郵送、FAX でお願います。

〒574-8555 大東市谷川1-1-1

大東市役所 (市民生活部 人権室内)

人権啓発ネットワーク大東事務局

TEL: 072-870-0441

FAX: 072-872-2268